

## 2025 年度「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」自己点検・評価報告書

教育推進室

教育推進室で「大谷大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」（以下、本プログラム）について点検・評価を行った。

## (1) 体制について

本プログラムの運営責任者、改善・進化させるために自己点検・評価を行う体制は以下の通りである。

運営責任者	教育・学生支援担当副学長兼文学部長
体制	教育推進室
体制の目的	本学の教育活動について継続的に検証及び提言を行い、学生の学びの質保証及び教育の推進に資することを目的としている。
体制の構成員	(1) 推進室長（教育・学生支援担当副学長兼文学部長） (2) 副推進室長 (3) 文学部長 (4) 社会学部長 (5) 教育学部長 (6) 国際学部長 (7) 大学院人文学研究科長 (8) 学生支援部事務部長 (9) 学生支援部教務課長 (10) 推進室員 若干名

## (2) プログラム概要について

## ① 目的

数理・データサイエンス・AI への関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成すること

## ② 履修すべき科目・単位（修了要件）

本プログラムは下記の科目で構成しており、このうち必修科目のすべての科目及び選択必修科目のうちから1科目以上を卒業までに履修することで修了となる。

区分	科目名	単位数	開講学科等
必修	I C T 入門	2 単位	共通基礎科目 大学導入
	データサイエンス入門	2 単位	現代総合科目 キャリア形成系
	データサイエンス基礎	2 単位	現代総合科目 キャリア形成系
選択	情報と倫理	2 単位	現代社会学科（他学部他学科受講可）
必修科目	PC 利用による表計算応用	2 単位	現代総合科目 キャリア形成系

### (3) 評価について

≪ A ≫ 記入責任者 【 藤元 雅文 】

#### ※評価基準

評価	基準
S	目的に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが卓越した水準にある（概ね問題はなく、改善・向上に関する取り組みが卓越している。または成果を期待できる）。
A	目的に照らして良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが概ね適切である（課題はあるが、ふさわしい水準は担保できている。また、課題の解決に向けた計画や見通しがある。または、その取り組みを進めている）。
B	目的に照らして軽度な問題があり、理念・目的の実現に向けてさらなる努力が求められる（課題はあるが、課題の解決に向けた計画や見通しがある程度立てられている）。
C	目的に照らして重度な問題があり、理念・目的の実現に向けて抜本的な改善が求められる（大きな問題があり、対応策も立てられていない）。

### (4) 点検結果について

点検項目	点検結果
プログラムの履修・修得状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・本プログラムは2024年度より実施しているが、2025年度の修了者は1名。</li><li>・2025年度の履修者は次の通りである。<ul style="list-style-type: none"><li>「ICT入門」827名</li><li>「データサイエンス入門」18名</li><li>「データサイエンス基礎」10名</li><li>「情報と倫理」190名</li><li>「PC利用による表計算応用」15名</li></ul></li><li>・システム上、取得希望として登録している者は8名。</li><li>・情報教室で対面実施している科目では定員を設定せざるを得ない状況のため、授業の実施方法については今後も教育推進室で検討を行う。</li><li>・各授業における理解度をはかる課題等の提出状況については、LMSで把握することが可能である。</li></ul>
学修成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・本プログラムを構成する科目等では、「AIを扱う上で必要となる統計の知識や、データ分析を行う上でのルールなどの基礎知識を体系的に理解する。」「活用事例に沿ったシチュエーションでの統計の体験を通じて、統計を活用することができる。」等を学修成果として想定している。</li><li>・各授業においては、シラバスに基づき適切に到達状況を確認して厳正な成績評価を行っている。</li><li>・なお、今後は、外部のアセスメントテストを活用して測定すること等も教育推進室において検討を行う。</li></ul>

<p>学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目・全履修者を対象に実施している「授業評価アンケート」にて、「この授業の内容を理解または習得できましたか」という質問の回答で確認しており、必修科目である「データサイエンス入門・基礎」の平均は82.6%が「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高い結果となっている。</li> <li>・「ICT入門」はオンデマンド授業のため全学的な「授業評価アンケート」の対象となっていないが、独自で実施しているアンケートでは、15回の授業すべてで「理解できた」、「やや理解できた」の割合が80%程度と高い割合になっている。 (2026年度は全学的な「授業評価アンケート」の対象としても実施予定である)</li> <li>・教育推進室で状況の把握・分析を行うとともに、「授業評価アンケート」の結果は各担当教員も確認できるため、必要に応じて改善を行っている。</li> <li>・なお、授業内でも定期的に設定する課題で学生の理解度を確認している。</li> </ul>
<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目・全履修者を対象に実施している「授業評価アンケート」にて、「全体的にみて、この授業はあなたにとって有益で満足度の高い授業でしたか」という質問の結果は、回答者のうち95.5%が「そう思う」・「どちらかと言えばそう思う」と回答し、高い結果となっている。</li> <li>・よって、この結果を維持しつつ、受講した学生が他の学生へ推奨することを企図する。</li> <li>・また、2025年度修了者にもヒアリングを行い、高い推奨度であることを確認できている。</li> </ul>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムを構成する必修科目の「ICT入門」は2025年度から全学必修となっている。また、毎年度新入生に配付し、大学HPでも公開している「履修要項」において、本プログラムの内容を掲載し、学生の履修を推進している。</li> <li>・本プログラムで「選択必修科目」としている「情報と倫理」では、開講元である社会学部だけではなく、「自己選択科目」(卒業にあたっては必修ではないが、修得した場合は卒業所要単位に計上される科目)としての履修となる他学部の学生も受講しており、全学的な興味・関心があると思われるため、本プログラムの効果的な周知を行い、学生の履修を推進する。</li> </ul>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度の修了者は1名で、進路や活躍状況、企業等からの評価については、担当部署とも連携し、把握する体</li> </ul>

評価	制を構築している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学で毎年度実施している「業界・企業研究セミナー」の参加企業に、本プログラムの内容・手法等への意見を聞くアンケート調査を実施し、教育推進室で確認のうえ、改善へつなげる予定である。</li> </ul>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルカリキュラムの「導入」部分に準じた内容を展開するとともに、事例紹介では、実際に京都人口統計データやそれを活用した公的な取り組み事例などを紹介し、身近で活用されているデータサイエンス事例と、今、学んでいることをリンクさせて紹介することで「学ぶ楽しさ」を理解させている。</li> <li>・また、これからの社会で受ける恩恵、社会で出た際に求められる役割、どのように社会が豊かになるのか、等について紹介することで「学ぶことの意義」を理解させている。</li> <li>・「授業評価アンケート」の「有益度・満足度」、「ものの見方や考え方への知的刺激」の項目をもとに、授業担当者等とともに評価・検証を実施し、内容の改善を行う。</li> </ul>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業評価アンケート」の結果や企業等へのアンケート結果をもとに、学生に「分かりやすさ」の観点から、授業の内容について教育推進室で検討を行う。</li> </ul>

以上